

令和7年度 母子保健指導者養成研修
こども家庭センターに関する研修



母子保健と児童福祉の 一体的支援

国際医療福祉大学成田看護学部看護学科

小稲 文

母子保健における子育て健康支援の課題

- ◆妊娠中からの母子保健施策の普及や母子保健事業の実施により、妊産婦死亡率や乳児死亡率は減少した

虐待死の問題が出る

- ◆少子化や高齢出産の増加や核家族化の進行
産後の特に支援を必要とする時期に、家族等の身近な人からの支援を受けることができず、不安や不調を抱えたまま、新しい生活の始まりが余儀なくされる
- ◆妊娠期から子育て期にわたるまで
関係機関と連携した切れ目のない支援
育児を社会化していくことが課題

妊娠期からの虐待予防
特定妊婦の支援

母子保健活動の広がり

◆母子の環境を安定させる取り組みや子どものもつ特性に応じた環境整備

◆児童虐待防止の包括的取り組みや発達障がいの早期支援にも母子保健の果たす役割は大きい

「子育て支援」▶福祉との融合領域まで広がる

◆〈妊娠期からの支援〉

①妊娠中からの環境整備

②乳幼児健診における虐待予防・早期発見

③母子保健サービスを利用しない、利用できない親への気づきと支援



公衆衛生看護の視点

- ◆個人の努力ではどうにもならない健康の問題を社会の力で解決する ⇒ 環境を整えば問題にならないこともある
- ◆健康問題を解決するためには、組織的な取り組みが必要
- ◆誰もが暮らしやすい地域になるように働きかける

対象者：

- ◆対象者は生活者 ⇒ 24時間目的をもって生活している
- ◆何が健康問題を引き起こすのか、どのような背景から起こっているのか見極める力が必要

こども家庭センター設置

子育て世代包括支援センターと
こども家庭総合支援拠点との連携強化

一体的な相談支援体制をめざす

全国的に2つの組織が別のため連携・協働を行う職員の負担や情報共有が不十分であることから、一体的支援をめざして 統括支援員を置き、こども家庭センターを設立する とされている

(対象者) 全ての妊産婦、子育て世帯、こども

どのようになったら一体的支援ができているとなるのでしょうか？

保健と福祉の連携 から一体的支援へ

- ◆母子保健・児童福祉が対象者のニーズをトータルにとらえ、統合化したシステムのあり方をめざす



こども家庭センター

- ◆「システム化志向」でこども虐待予防対策の推進をめざす
- ◆母子保健と児童福祉の「連携・調整」こそ重要

母子保健と児童福祉の 一体的支援の課題

◆母子保健・児童福祉のそれぞれの業務の歴史 と専門性

母子保健：医療的な知識や技術に裏打ちされた
専門性

児童福祉：児童福祉法等制度の固有性に依拠
した専門性

専門化・分業化による**対象者のニーズと変化の
見えにくさ** → 補うのが「連携・調整」

母子保健と児童福祉の 一体的支援の課題

◆保健・福祉のそれぞれの業務の歴史と専門性

母子保健	児童福祉
保健活動は予防活動といわれるよう将来を予測しての活動が多い	現在直面している問題が第一優先課題で、危機への対応を行う
「予防的視点から問題の明確化」をめざし、対象者のもつ力を発揮できることを問題解決の主眼において役割を遂行する	ケースの生活を支える生活自体を中心にみる 生活実態を取り巻く情報が入るシステムがある

母子保健と児童福祉の 一体的支援の課題

◆個別ケアのコーディネート

相談業務（面接・電話・家庭訪問）



母子保健：

- 住民ニーズに基づいて展開される
- ニーズを指向する姿勢を貫き、関連する対策にも有効に活かす資源として「資源化」を図る

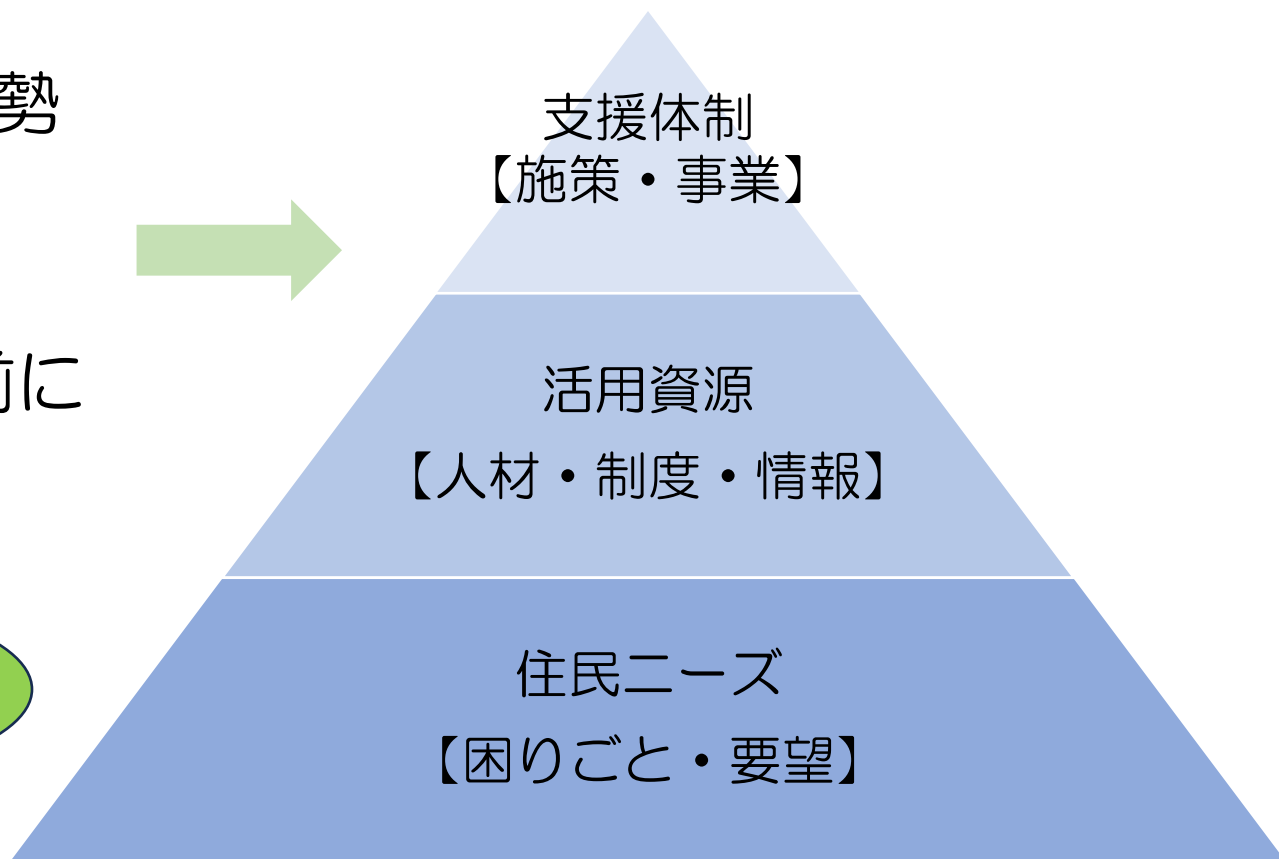
児童福祉：

- 住民ニーズの認識はそれほど高くはないが、支援する側の問題認識から活動が展開することがある

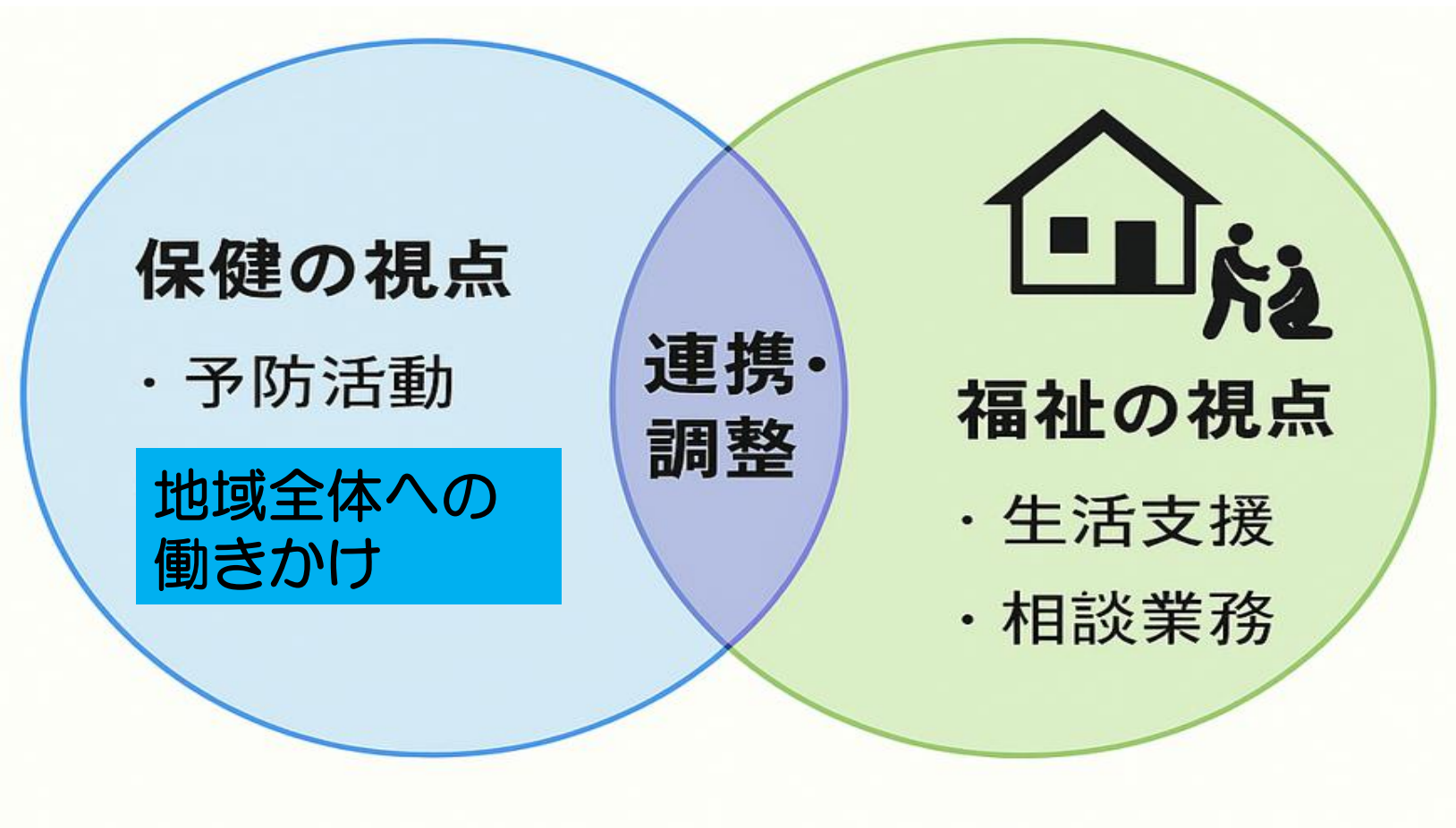
住民ニーズに基づく 支援の展開

ニーズ指向の姿勢
資源化の視点
支援者の認識
(何かが起こる前に
防ぎたい)

サポートプラン
の作成



母子保健と児童福祉の 連携と調整



保健と福祉の認識の ずれを埋める努力

専門性がコミュニケーションにもたらす分断とは

人々が「専門家」になる過程で身につけたコミュニケーションスタイルや思考パターンが有効な連携・共創を阻害する



思考と視点ズレ
による専門性の
「タコツボ化」

*「タコツボ化」とは
組織やチームが他の部門やグループ
との連携を避け、それぞれの専門分野
や部門に閉じこもってしまう状態

「共に何かを生み
出したい」

微重力思考を活用する

異なる立場や視野を持つ人々が
対話を通じて新たな知識や理解を
生み出すためのアプローチ

微重力思考を支える視点

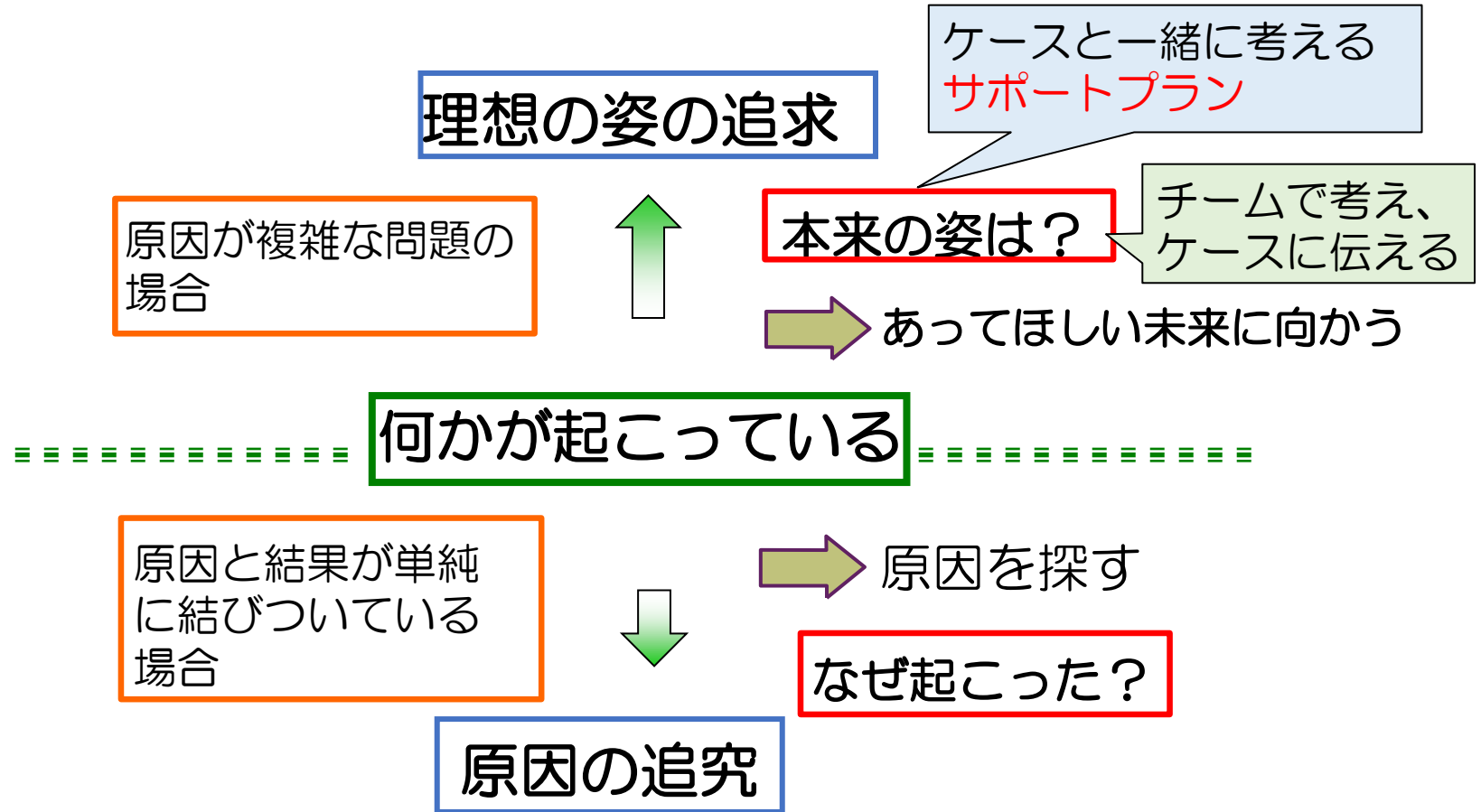
1 専門的関心からの脱却と当事者性

社会課題について「当事者」としての視点から考えて現実的で実効性のある解決を志向する

2 理想論からの脱却

「あるべき未来」「あってほしい未来」といった理想的な未来像（長期目標）の他、現実的な「ありそうな未来」（短期目標）について考察し、具体的な解決策（条件）を志向する

問題解決のための 2通りの進め方



保健と福祉の ネットワーク化

- 関係機関との連絡・調整
- 合同ケース会議の開催・運営
- 対象者であるこどもと家族の生活を支える



保健と福祉の ネットワーク化

- ◆自己完結的な仕事から「連携・調整」を行いながらチームで仕事をする



保健と福祉の認識のずれを埋める努力
適切な情報共有（リスク・コミュニケーション）



【まとめ役】統括支援員の役割
フィードバック機能

まとめ役 統括支援員

母子保健・児童福祉に係る包括的支援のマネジメントを担う役割

行っている支援に対して判断をする
⇒ モニタリング 評価
見直し **これでいい？**

相談支援を俯瞰的にみて調整する
⇒ 全体把握力
自分だけでしない

チームメンバー間の倫理を保つ(急がない、攻撃しない、非難しない 等)
⇒ チーム力↑
余裕のなさを横の関係で元気づける

- ◆ 相手に疑問点等を聞ける関係性の構築
- ◆ 対応を押しつけず、共に考え行動するチームを作る



チームング

チームが機能する ために

チームが機能するとはどういうことか（チームング）

チームが機能するとはどういうことか——「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ 単行本 - 2014/5/24
エイミー・C・エドモンドソン (著), Amy C. Edmondson (著), 野津智子 (翻訳)



*チームングとは
協働するという「活動」を表す造語

「関連ある考えや感情について人々が気兼ねなく発言できる雰囲気」と定義

- 率直に述べたり質問したり考えを共有したりすることを後押しする新しいリーダーシップが必要

チームが機能するために

「チームング」のプロセス

- 専門家たちを団結させ、しっかり務めを果たせるようにするプロセス
- 組織が相互に絡み合った仕事を遂行するための、より柔軟な方法を示す

活動的なプロセス

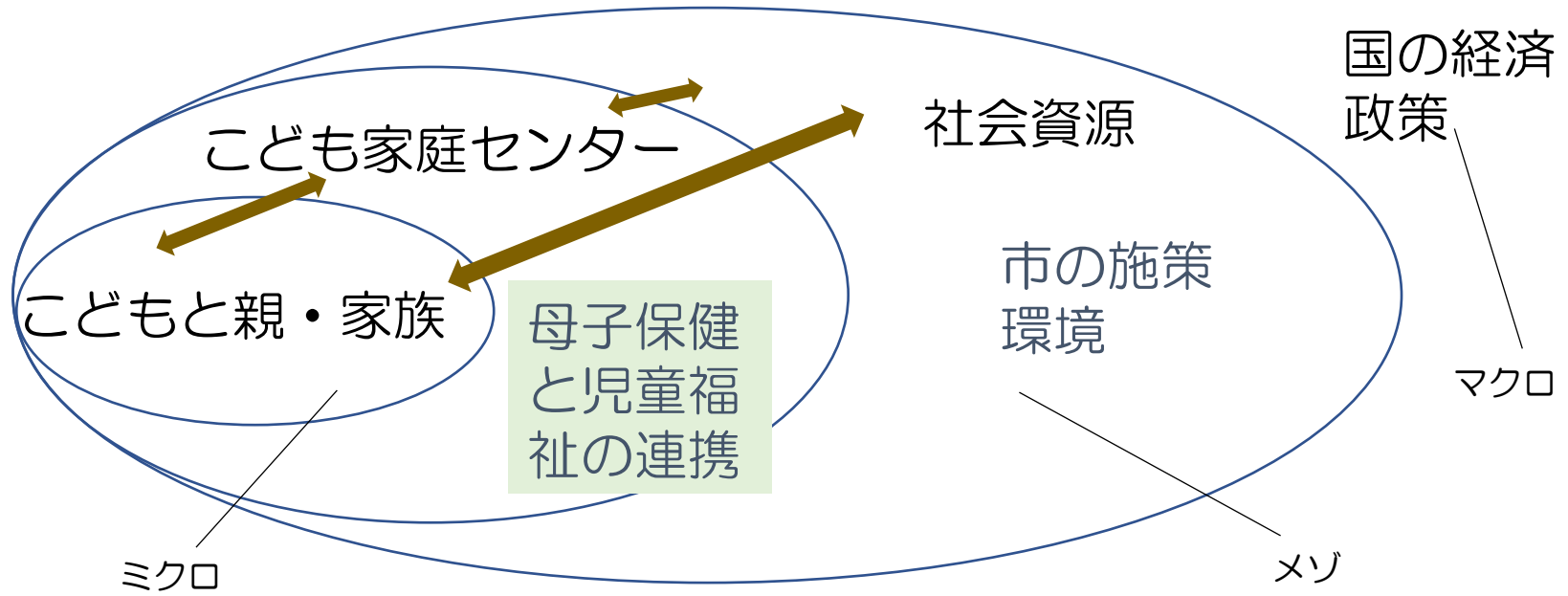
- 違った考えに耳を傾けること（意見の不一致がもたらすメリット）
 - 一体となって動くこと
 - 判断を共有すること
- 感情的スキル（感じる力）と認知的スキル（考える力）が必要

メンバーの強みと経験と知識を合わせて、組織の目標を達成する

【まとめ】 一体的支援の目的は どこにあるか

- ◆地方自治体の職員としてこどもの命と権利を保障していく ⇒ **こどもの健全育成**
- ◆対象者がこれからどう生きていきたいかに焦点をあてた目標づくり
- ◆目的「何のために」が明確にあると「そのためにどうすればいいか」が話し合うことができる
⇒ **支援目的と目標の共有**
- ◆個の健康問題を全体の問題へと発展させ、それを施策に結びつけたり、課題に対して調査するなど施策化・事業化を行う

- ◆ 問題の背景をさぐり、根本的な問題解決のビジョンを考える
 - ◆ 地域全体にその効果が広がるように活動を展開し、健康問題、生活面の問題を解決できよう働きかける
- 誰もが暮らしやすい地域をめざす



一体的支援の課題と対策

課題	対策
<input type="checkbox"/> 専門性の違い	<input type="checkbox"/> 統括支援員による調整
<input type="checkbox"/> 分業化の弊害 ニーズの見えにくさ	<input type="checkbox"/> チーム支援による 情報共通
<input type="checkbox"/> 認識のずれ	<input type="checkbox"/> 合同ケース会議での 意識の統一・目標設定

一体的支援に向けた 心構え

- 相手のスキーマを把握し、ミスコミュニケーションをなくす *スキーマとは、経験でできた“考えの型”、情報解釈の土台
伝わっているは妄想？
異なった思考の人が集まっていることを意識する
- 一枚の絵をかくようにめざす姿を具体化、共有する
みんなで一つのところに向かっていく
- 心理的安全性が保たれる関係を結び
対等な関係性を築く

